

1 国語科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 学習指導要領全面実施に対応した中学校国語科年間指導計画の確認

① 指導事項と言語活動を基本にした年間指導計画の作成

- ・ 他教科，他領域と共通理解し，連携していくためにも有効。
- ・ 系統性，発展性に留意し，繰り返し指導事項を指導できる計画を。

\*参照 「中学校学習指導要領解説国語編」(P108～115)の「各学年の目標及び内容の系統表」  
文部科学省

ア 各指導事項のポイント

話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
・課題解決的な言語活動との関連を意識。		
・「書くこと」との指導の違いを明確に。 ・単に聞くだけでなく，〈聞く＋能動的な内容〉を意識。 ・話す能力・聞く能力を総合的に発揮し，実際の話合いの中で自覚し，実践できるように。	・根拠を明確にして書くことを繰り返し指導。 ・書く過程における交流も想定。	・「文章の解釈」に関わる指導事項は，第2学年，第3学年では，説明的な文章，文学的な文章を合わせて示している。 ・「自分の考えの形成」に関わる指導事項は，「形式」「内容」の両方について「どう思うのか，なぜそう思うのか」を明らかに。（この改訂でのポイントは「形式」に関わる部分。） ・幅広い読書や情報活用につなげる授業を。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		・改定常用漢字の指導にも留意。→現中学1年生の入試時に影響。 ・古典は，楽しみ方・親しみ方を指導する。

\*参照 「常用漢字表の改定に伴う中学校学習指導要領の一部改正等及び小学校，中学校，高等学校等における漢字の指導について(通知)」 文部科学省ホームページ

イ 指導事項と言語活動を関連させた単元の構想

- ・ 「言語活動を通して指導する」＝例「より目的を持って文章を読むよう指導する」

ウ 既習事項を生かすための計画的な指導

- ・ 既習事項を基にして学習の見通しを持たせる場面を。

\*参照 「言語活動の充実に関する指導事例集」【中学校版】 文部科学省ホームページ

② 「指導計画の作成と内容の取扱い」に即した年間指導計画の作成

ア 領域等の相互関連，学校図書館の活用，情報機器の活用

イ 「話すこと・聞くこと」，「書くこと」の指導の配当時数

ウ 書写の指導の配当時数と，年間を通した指導のバランス

- ・ 年末年始に作品を仕上げるためだけに時間を費やすことのないように。

エ 道徳との関連

- ・ 「国語」で学んだことを道徳の時間に思い出し，道徳の教材の中に国語に関わるものが出てくる状態を意図的に設定していく。

(2) 中学校国語科における指導と評価の一体化の推進

① 授業のチェックポイント

ア 指導事項と言語活動の適切な関連

- ・ 付けたい力は明確になっているか？  
(＝学習指導要領の指導事項が明確に位置付いているか？)
- ・ 付けたい力と関連させた教材研究がなされているか？
- ・ 付けたい力について効果的に指導するための言語活動が設定されているか？

言語活動を通して指導することにより…

- 付けたい力が効果的に身に付く。 ○生徒が学習に一層興味関心を持つ。
- 生徒が学習の見通しを持ち，主体的に取り組む。
- 実生活で生きて働き，各教科等の学習の基本となる国語の能力が身に付く。

イ 指導の系統性の意識

- ・ 小1～中3の指導内容の系統性が意識されているか？

○既習の内容を想起させ、使わせることが大切。  
○他領域の学習内容との関連を図ることも大切。

ウ 目的と見通しが明確な単元の構想

エ 読書に広がる学習の展開

- ・ (特に読むことの指導において) 読書に広がる学習になっているか？

○「国語の授業」と「日常的な読書活動」を関連付ける指導が大切。  
○読書に結び付ける授業は単元の終わりとは限らない。「目的を明確にして、文章を読む」ために導入時に、あるいは「関連した読書」として並行して、取り入れることが考えられる。

オ 付けたい力を明確にした適切な指導と評価

- ・ 客観性・信頼性のある評価を。
- ・ 授業を変えるために評価を変えていくという意識で。

\*参照 「中等教育資料」H23.4  
(P82～85)「ここがポイント！中学校新教育課程の指導と評価」ぎょうせい

② 新しい学習評価の定着と充実

ア 学習評価の改善に関する基本的な考え方の理解

イ 効果的・効率的な学習評価推進のための取組

ウ 具体的な評価事例に基づいた研修の充実

\*参照 「評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料(中学校国語科)」  
国立教育政策研究所 教育課程研究センター

2 平成24年度全国学力・学習状況調査に係る資料の活用の仕方

(1) 24年度調査について

各設問における新学習指導要領の指導事項を併記した「中学校学力・学習状況調査解説資料 中学校国語科」を間もなく公表予定。調査結果を踏まえた授業アイデア例を新学習指導要領に基づいて作成中。

(2) 調査結果の見方のポイント

ア 全国学力・学習状況調査の基本的な枠組み

A (主として「知識」に関する問題), B (主として「活用」に関する問題) 共に基盤的な事項についての出題。

個々の設問の回答結果に基づいて生徒の学習の状況を捉え、主としてA問題で問われている知識・技能とともに、思考力・判断力・表現力をも育成する授業づくりに本調査結果を役立てることが重要。

イ 全国学力・学習状況調査に係る資料の活用の仕方—授業づくりにこう生かす—

\*参照 <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>  
〈 調査問題・解説資料・報告書(最新のもの8月公表予定)・授業アイデア例・  
取組事例集・今後の取組が期待される内容のまとめ【本編】【資料編】 〉